



おいでよおぼこの街
Facebook



おいでよおぼこの街
note



※本誌発行時点では、今年の募集は締め切っています。

子どものための街 子どもによる

今回は、子どもが自治する「おぼこの街」を企画・運営する「おいでよおぼこの街実行委員会」代表の埴澤さんにお話を伺いました。

「おぼこの街」は「仕事をしながら社会を学ぶ」をコンセプトにした子どもの街で、2021年に誕生しました。普段ボランティア活動などを行っている大学生が中心になって運営しています。

「おぼこの街」の主役は子どもたち。この小さな街は、スタッフ以外の大人は入ることができないネバーランドです。街のお店では子どもが従業員となりお金を稼ぎ、一部を税金として納めます。手元に残ったお金で「おぼこの街」の経済を回し、税金は図書館など公施設運営費に充てられます。お金をたくさん貯めたら、起業もできます。共同出資で起業した子どもたちは、利益配分で熱い討論を交わしたそうです。大人の手が入るのは、最低限のルール説明や、高温調理などの専門的な作業、安全管理のみです。

「おぼこの街」の運営資源は、米沢の企業・団体・住民の協賛金や協賛品のみに。

—第9回—

はなわ みお
埴澤さん
(南相馬市出身)

山形県立米沢栄養大学3年生。「おぼこの街」以外にも、子ども食堂やフードドライブでボランティア活動をしています。

行政からの補助金はありません。人とのつながりを大事にしたい・地元に根差した、この先も継続できる活動にしたという思いがそこにはありました。

「子どもたちが、自分の頭で考える力を身に付けるきっかけになってほしい。学校と家の往復では得られない体験を通して、社会がどう動いているのか感じてほしい」。子どもだけの小さな街には、大人の想像を超える体験が詰まっています。

